

「〇〇さん！それはアサーティブなのか？」

2024・5・1 重枝 一郎

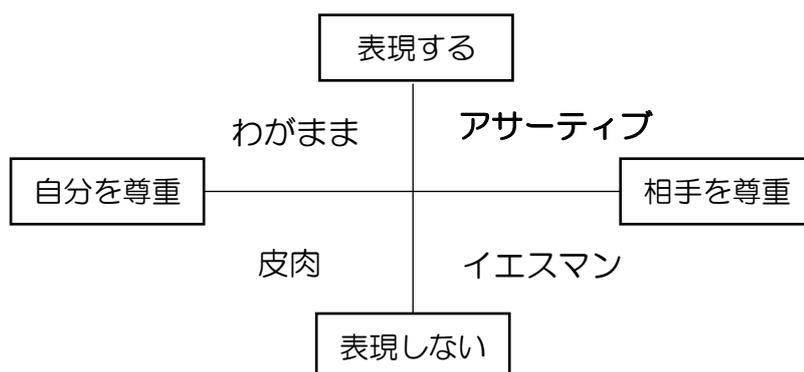
学生が社会に出ると年代の違う上司や先輩とのコミュニケーションに悩むという話は以前からある。最近、ハラスメント問題が顕在化し、やさしい上司が増加している。それでも人間関係の悩みは消えない。2023年8月の厚労省の資料に「20～24歳が早期退職した理由」がある。男女共に1位は「労働条件」、また、私が特に気にしている「職場の人間関係」は男子が3位で女子は2位であった。

そんな「コミュニケーションの壁」を乗り越えるために必要なものは何なのか。それは自分も相手も大切に作る“アサーション”になる。だからこのアサーションについては、私は何回も発信している（校長研修だより71号137号・校長講話2021年7号2023年4号）。なぜなら本校は、「心地よい関わり合いを大切に、のびのびと青春を謳歌する学校」であることを学校文化としているからである。

冒頭に人間関係が原因で新卒入社した会社を辞めてしまう話をしたが、実態調査において、かつてのようなパワハラは減少傾向にあるものの、新たに「ゆるい職場」が若手の成長のネックになっているという。そのことも「コミュニケーションの壁」から生まれている。つまり上司や先輩が、遠慮して言わなかったり、無関心的に期待しなかったりするからである。上司や先輩が優しくなっただけでは、実はコミュニケーションに関する問題は解消されない。

高校・大学を卒業して社会に出た若い人たちは、それまでの同一年齢で価値観も似通った集団から、世代も価値観も異なる多様な人たちが集まる環境に飛び込むことになる。だが、そのギャップは誰にでもあることであり、決して自分だけの問題ではないと考えることがまずは大切になる。そのうえで、わからないことについてはわからないと素直に聞けることが、次に大切になってくる。ここに“アサーション”という考えが大きく関わってくる。

アサーションとは、自分も他者も尊重するコミュニケーションのことである。例えば、「相手の気分を害さないように言いたいこと言わない」というスタンスは、相手は尊重しているが自分を尊重していない。また、一方的な自己主張の押し付けは当然ながら相手を尊重していない。下図の4象限に示したように、自分と相手の尊重のバランスが崩れると「わがまま」「皮肉」「イエスマン」に陥ってしまう。



一言で言うと、アサーションとは「私はこう思うけど、あなたはどう思う？」というコミュニケーションである。自分にとっての正解が、相手にとっても正解かどうかわからない。だから対話し、協働することで何かを生み出していくことになる。これはまさに教科の授業の学習プロセスと同じである。アサーティブだと相手を理解したいという気持ちが強くなり、「人から学ぶ」という姿勢にもつながる。つまりアサーティブは学力向上にも、人の成長にも、社会に出た後の「コミュニケーションの壁」の克服にもつながる。だから本校では、入学時から徹底して「それはアサーティブなのか？」という問いを学校文化になるまで生徒に投げかけてほしい。